

第93回全国書画展覧会 審査長 紹介

書写の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

豊口和士先生

画の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小林恭代先生

第93回全国書画展覧会「書写の部」の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 豊口和士

第93回全国書画展覧会「書写の部」に出品されたすべての児童・生徒の皆さんのお品に向けてのご努力を讃えます。そして、見事受賞された皆さん、本当におめでとうございます。ご指導に当たられた先生方、ご支援くださったご家族の皆様におかれましてお喜びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

毎回申し上げることですが、審査を通して、どの出品作品からも日頃の学習の成果が確かに見て取れ、皆さんが熱心に学習し作品制作に取り組まれているご様子や思いが伝わってきました。審査する者としても幸せを感じる時間となりました。

書を学ぶことを通して、まずは言葉による他者とのコミュニケーションの多様性に気付いてもらいたいと思います。自身の思いを他者にいかに伝えるか、他者の思いをいかに受け止めるかを実感しながら、相互の存在やそれぞれの個としての価値を認め合い、現在だけでなく、これから出会う様々な人や物事に対して感性を働かせて向き合い、あらゆる人や物事との関係の中であなた自身にとっての意味や価値を見つけ出してほしいと思います。書を学び、書で自身を表現すること、他者の書による表現に触ることは、書や言葉に限らず、今後の皆さんの生活を色鮮やかで豊かなものにしてくれるはずです。

社会ではICT機器やAIなどが多方面で使われ、学校教育の中でもコンピュータがなくてはならないものになってきている中、皆さんのが思いを込めて表現する活動は、想像以上に意味や価値があるものです。その方法や手段には絵画や音楽など様々ありますが、ここに集ったさんは書を学ぶことを通して体験しているのでしょうかし、書を通して表現することに、既に皆さんなりの意味や価値を感じ取っていることでしょう。今後も書で表現することに、真剣に、楽しみながら取り組んでいってください。

本年度の内閣総理大臣賞「出発」、文部科学大臣賞「成長」、「輝ける未来」は、学校での書写の学習の成果が学年に応じてそれぞれに発揮され、技能面で優れているだけではなく、表現した児童生徒の思い、書で表現することの楽しさにあふれています。審査に当たっては、文字構成と全体構成、用筆・運筆の正確さ、点画のつながりや筆脈の流麗さ等に特に注目しますが、上記の3作品はそれらの点で際だって優っていました。

出品に当たっては、字形や点画の形を整えることだけでなく、筆順による運筆や点画のつながり、筆脈を意識し、文字や言葉として捉えることを大切にしてください。

小学生の皆さんには、毛筆による書写の学習を通して感じたことを生かして、普段の生活の中でも硬筆で文字を正しく整えて、丁寧に書くことを心がけてください。中学生の皆さんには、目的意識・相手意識を持って、豊かに伝えるために効果的に書くことを心がけ、身の回りの多様な表現や文字文化の豊かさに关心を持ち続けてください。

最後に、全国書画展覧会の運営に尽力された皆様に敬意を表するとともに、本展覧会が日本の伝統と文化の継承と理解の推進に益々寄与され、子供たちの確かな成長と我が国の「文字文化」ならびに「芸術文化」の進展にさらに大きな役割を担うべく、一層発展されることを祈念いたしまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（絵画の部）の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 小林恭代

毎年たくさんの創造的な作品と出会うことを楽しみに、この審査会に参加しています。このような質の高いコンクールが継続されているのも、主催者を始め関係者の方々の多大なご努力と、ご指導いただいた先生方、子供を認め支えてくださった保護者の皆様、多くの方々のご支援の賜物と存じます。

皆さんは、絵に表すことを通して、様々な力を身に付けていくことができます。絵に表すには、まず「どんなことを表現するか」という主題を決めねばなりません。「こうなつたらいいな」と、想像してみたり、これまでの経験を思い出したりして、自分が表したいと思うことを見付ける力や、どうやって表していくか考える力が必要となります。

主題が決まつたら、表したいことに合わせてどのような材料や用具を使うのか、どのような表し方をするのかを決め、実際に工夫して表していきます。そのときも、紙はたて向きにするか横向きにするか、何を、画面のどこに、どのくらいの大きさで描くのか、色は何色にするのかなど様々に考え、手を動かしていったことでしょう。このように、1つの作品をつくりだすまでには、たくさんのことを考え、決め、工夫する必要があります。ときには、思うように描けないときもあったかもしれません。そんなときにもあきらめず、粘り強く最後までやりきる力も必要です。

これらのことこそが、表現を通して学んでいることです。その過程を重視することが大切であり、審査も、この作品がどのようにして生まれたのかという過程に着目して、慎重に行われました。

次に、このような力を働かせて表された作品を3点紹介します。

（1）内閣総理大臣賞 「三石山の景色」

学校の近くにある山に登ったときのことを思い出して表しています。普段見慣れた景色も、視点を変えることで全く違ったものに見えたでしょう。そして、改めて感じた自分の地域のよさを、皆に伝えたいという思いを込めて、表し方を工夫しています。印象的なのはその色使いです。木々は、鮮やかな黄緑色と、黒を混ぜて彩度を押さえた深緑色を組み合わせており、ところどころに配置した屋根の赤い色が、画面を引き締めています。画面全体のバランスに着目し、最後まで粘り強く描き切った作品で、作者の豊かな感性を感じました。

(2) 文部科学大臣賞 小学生の部 「雨の日のバス停」

まず、画面から、雨の日特有の、少しうす暗い感じ、しっとりと湿った空気を感じました。バス停の向こうにある景色も想像できるような、どこか懐かしさを感じさせる作品です。自分がもつ雨の日のイメージを、どうしたら表せるだろうと、色の感じに着目して表し方を工夫したのだと思います。青い絵の具を塗り重ねて、少しずつ自分のイメージに近づけて表していく過程が想像できました。少女が持つ傘も、雨の中に溶け込むような色合いで、表現上の効果を高めています。自分の思いを大切にして、素敵な世界をつくりだすことができました。

(3) 文部科学大臣賞 中学生の部 「努力の結晶」

美術科において、自分らしい主題を生み出すとともに、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることは、ぜひ身に付けたい資質・能力です。本作品からは、作者の表したい思いが明確に伝わってきました。背景を、黄色を主にした色調で表す一方で、人物や野球の用具は青い色調でまとめた構成は、画面の統一感を生んでいます。今、まさにバットを振り抜く打者、投球を受けようとする捕手は、どのような表情をしているのでしょうか。見る人に想像を委ね、一瞬の緊迫した空気も伝えています。様々な工夫を凝らしたこの作品は、まさに作者の努力の結晶ともいえるでしょう。

一人一人が創意工夫を重ねて生み出した作品には、かけがえのない価値があります。児童生徒の皆さんには、様々な作品を見て、参考にすることもあると思いますが、自分らしさを大切に表現していってほしいと願っています。審査でも、この創造性を大切にする視点を重視しました。これからも、自分にとって新しいものやことをつくりだすように、表したいことを見付けたり、どのように表すか考えたりし、「こんなことを表したい」「こんなふうに表したい」という「自分の思い」を基に、自分らしく表していっていただきたいと思います。

引き続き、先生方には子供の思いを受け止め、つくりだす喜びを大切にしたご指導をお願いいたします。また、家庭、地域の皆様には、今後とも学校教育活動に一層のご理解をいただき、連携を深めていただけたらと思います。

最後に、「全国書画展覧会」の一層のご発展を祈念いたしまして、審査講評といたします。